

君の生の声が聴きたい

情報機器の発展により、様々な問題が発生し社会問題化しています。その一つとして、「深夜まで **LINE のやり取り** をして朝起きられない」という問題があります。学校では道徳科の節度や友情の項目において、情報機器をどのように使ったらよいかを子どもたちと共に考えていきます。そして、相手と直接、会話をした方が、自分の気持ちを伝えやすいということを、子どもたちに気づかせていきます。

ご家庭でも、是非、お子さんといろいろな話をしてみてください。普段、子どもと話したことがないからと戸惑いがある方は、以下に一例を載せておきますので、参考にしてください。



お父さん（お母さん）：まさお（お子さんの名前）、今日、学校、どうだった。

まさお：きょうね。おとうさん（おかあさん）、けしゴムをわすれたんだ。

お父さん（お母さん）：ほう、どうしたんだ。

まさお：テスト（てすと）のとき、こまったから、うしろのともだちにかりたんだ。

お父さん（お母さん）：あら、先生に怒られたでしょう。

まさお：そう、よくわかったね。

お父さん（お母さん）：それは、そうだよ。お父さん（お母さん）もあるもん。

まさお：おこられた。それから、せんせいが「うしろのひとのこたえをみたでしよ

う。」というんだ。

お父さん（お母さん）：そう、言われるなあ。その話、先生から、聞いた。正直に話してくれて、ありがとう。

まさお：うそ！せんせいは、おとうさん、おかあさんにはいわないといってたけど！

せんせいのうそつき！

お父さん（お母さん）：で、まさおは、答えを見たの？

まさお：みてないよ！

お父さん（お母さん）：…（続きはアドリブで）

まさお：…（つづきは、じゆうに）

お父さん（お母さん）：たくさん話をしてくれて、ありがとう。そろそろ寝る時間なので続きは、明日（次回）にしよう。お・や・す・み・！

おさお：きょうのことは、けしゴム（ごむ）で、けした〜い。おやすみなさ〜い。

お父さん（お母さん）：持ってないのか。おやすみ。